



エコアクション21<sup>®</sup>

認証番号 0008147

# エコアクション21 環境活動レポート

(平成26年4月～平成27年3月)



この地球で一緒に暮らす  
～環境を守る心をはぐくむ教員を育てる～

平成27年7月31日



国立大学法人

鳴門教育大学

# 目次

---

1. 学長あいさつ	1
2. 鳴門教育大学環境方針	2
3. 環境マネジメントシステムの状況，大学創設の趣旨・目的	3
4. 対象範囲，活動，規模，組織	4
5. 環境目標，環境活動計画，平成26年度実績及び評価	5
6. 環境保全活動	10
7. 環境マインドを持った人材の育成	12
【各種活動】	
● 平成26年度新任職員研修	
● 平成26年度入学式オリエンテーション	
● リユースデイとバザールの実施	
● 平成26年度エコアクション21内部監査実施	
● 構内一斉清掃の実施	
● 平成26年度エコアクション21講演会開催	
● 平成26年度エコアクション21内部監査員養成研修実施	
【環境教育・研究】	
● 大学における環境関連科目	
● 大学における環境関連研究・取組の紹介	
● 附属幼稚園における環境教育取組状況	
● 附属小学校における環境教育取組状況	
● 附属中学校における環境教育取組状況	
● 附属特別支援学校における環境教育取組状況	
【環境関連の地域・社会貢献の取組状況】	
● 環境関連公開講座の紹介	
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反，訴訟等の有無	25
9. 代表者による全体評価と見直しの結果	26

## 学長あいさつ

---

鳴門教育大学は、全構成員が環境意識を高めるため、平成22年11月に『鳴門教育大学環境方針』を策定し、『エコアクション21』に取り組んでいます。

平成26年度は、これまでの実績を踏まえ新たな2カ年の目標を定め、構成員一丸となって目標達成に向けた取組を行いました。取組についての評価確認を行い、全体の評価と見直しを行うPDCAサイクルにより、継続的に改善しながら活動に取り組むことで、一人一人の環境に対する意識も着実に向上しているように感じられます。

また、世界に目を向けると地球温暖化をはじめとする環境問題やエネルギー問題など、人類共通の課題が山積しています。このような様々な環境問題を解決し、持続可能な社会を担える環境マインドをもった人材を育成することが重要です。



鳴門教育大学は、今後とも社会の要請に応える人材の育成を行い、持続可能なキャンパス環境の構築にチャレンジしていくとともに、構成員一人一人が地球規模の環境に影響を及ぼす責任を自覚し、引き続き環境保全への取組を推進していきたいと思います。

平成27年7月31日 国立大学法人 鳴門教育大学

学長 田中 雄三

# 鳴門教育大学環境方針

## 鳴門教育大学環境方針

### 基本理念

鳴門教育大学は、景勝の地、鳴門海峡の潮と光と人が調和する風の通り道にある。この自然を護り、教育の一番札所として優れた教育者を養成し、教育、研究および社会貢献活動を通して、学習環境や自然環境の保全、資源の消費量削減、再使用、再資源化の啓発、推進を目指し、未来へ向けて持続可能な社会を実現します。

### 基本方針

本学の基本理念に基づき、環境方針達成のため、環境目標及び環境活動計画を策定し、本学の教職員及び学生ならびに本学に関わる全ての人々が一体となり、以下の活動を自主的・積極的に推進します。

1. 環境活動を通じて、環境マインドを持った人材を育成します。
2. 環境マネジメントシステムを構築し、継続的な運用・維持・改善を図ります。
3. 本学のあらゆる活動に伴い発生する環境負荷の低減を目指し、次の項目を、重点的に取組みます。
  - 1) 二酸化炭素排出量の削減
  - 2) 水の使用量の削減
  - 3) 紙の使用量の削減
  - 4) 一般廃棄物の発生抑制
  - 5) 化学物質の適正管理
  - 6) グリーン購入の推進
4. 本学に適用される環境関連法規及びその他の事項を遵守します。
5. 環境方針は、本学の教職員及び学生ならびに本学に関わる全ての人々に対し、周知するとともに、環境活動レポート等で、社会にも公表し、環境コミュニケーションを図ります。

2010年11月24日

国立大学法人鳴門教育大学長

田中雄三

## 環境マネジメントシステムの状況

---

平成 22 年 11 月	エコアクション21 認証取得に向けキックオフ宣言 鳴門教育大学環境方針発表
平成 23 年 1 月	環境目標及び環境活動計画、環境マネジメントマニュアル策定
平成 23 年 4 月	エコアクション21 試行期間開始
平成 24 年 1 月	エコアクション21 認証・登録に際し、現地審査を行った
平成 24 年 3 月	鳴門サイトがエコアクション21 の認証・登録を取得した
平成 25 年 1 月	エコアクション21 現地審査（鳴門サイト中間審査、徳島サイト拡大審査）を行った
平成 25 年 2 月	徳島サイトがエコアクション21 の認証・登録を取得した（範囲拡大）
平成 26 年 2 月	エコアクション21 現地審査（更新審査）を行った
<b>平成 26 年 3 月</b>	<b>エコアクション21 環境活動レポート H24.4~H25.3 が「第 17 回環境コミュニケーション大賞」奨励賞を受賞</b>
平成 26 年 3 月	エコアクション21 の認証・登録を更新した
平成 27 年 2 月	エコアクション21 現地審査（中間審査）を行った

## 大学創設の趣旨・目的

---

教員には、教育者としての使命感と人間愛に支えられた豊かな教養、教育の理念と方法及び人間性に対する多面的な深い理解並びに教科・領域に関する専門的学力、優れた教育技術など、専門職としての高度の資質能力が強く求められている。

本学は、このような社会的要請に基づき、主として現職教員に高度の研究・研鑽の機会を確保する大学院と、初等教育教員及び中学校教員の養成を行う学部をもち、学校教育に関する理論的、実践的な教育研究を進める「教員のための大学」及び学校教育の推進に寄与する「開かれた大学」として昭和 56 年 10 月 1 日に創設された新しい構想の国立大学であり、以後社会の要請に応えるべく教育研究の充実に取り組んできた。

平成 20 年度から、今日の学校と教員を巡る状況を踏まえ、養成すべき教員像を明確にし、専門性と実践力を備えた力量のある教員を養成することとし、新たに専門職学位課程（高度学校教育実践専攻）を教職大学院として設置した。

大学院学校教育研究科「修士課程」において、教科・領域等における専門性を培い、優れた教育実践を展開できる能力を、「専門職学位課程」では、幅広い視点からの問題分析力・対応力・解決力を培い、学校や地域で指導力を発揮できる力量を、それぞれ有する初等中等教育教員を養成することを目的としている。

また、「学校教育学部」においては、幼児・児童・生徒の成長と発達に関する総合的な理解にたち全教科・領域にわたる優れた指導能力を備えた初等教育教員及び中学校教員を養成することを目的としている。



# 対象範囲，活動，規模，組織

(1) 法人名及び代表者 法人名：国立大学法人鳴門教育大学  
代表者：学長 田中 雄三

(2) 所在地ならびに認証・登録範囲

【鳴門サイト】

国立大学法人鳴門教育大学 〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島 748 番地

【徳島サイト】

鳴門教育大学附属幼稚園 〒770-0808 徳島市南前川町 2 丁目 11 番地の 1  
 鳴門教育大学附属小学校 〒770-0808 徳島市南前川町 1 丁目 1 番地  
 鳴門教育大学附属中学校 〒770-0804 徳島市中吉野町 1 丁目 31 番地  
 鳴門教育大学附属特別支援学校 〒770-0803 徳島市上吉野町 2 丁目 1 番地

(3) 活動（製品・サービス）： 教育・研究活動

(4) 対象者： 全構成員

(5) 環境管理責任者及び環境管理担当者

環境管理責任者： 担当理事・副学長 黒川 丈朗

環境管理担当者： 経営企画本部施設課長 田原 一幸

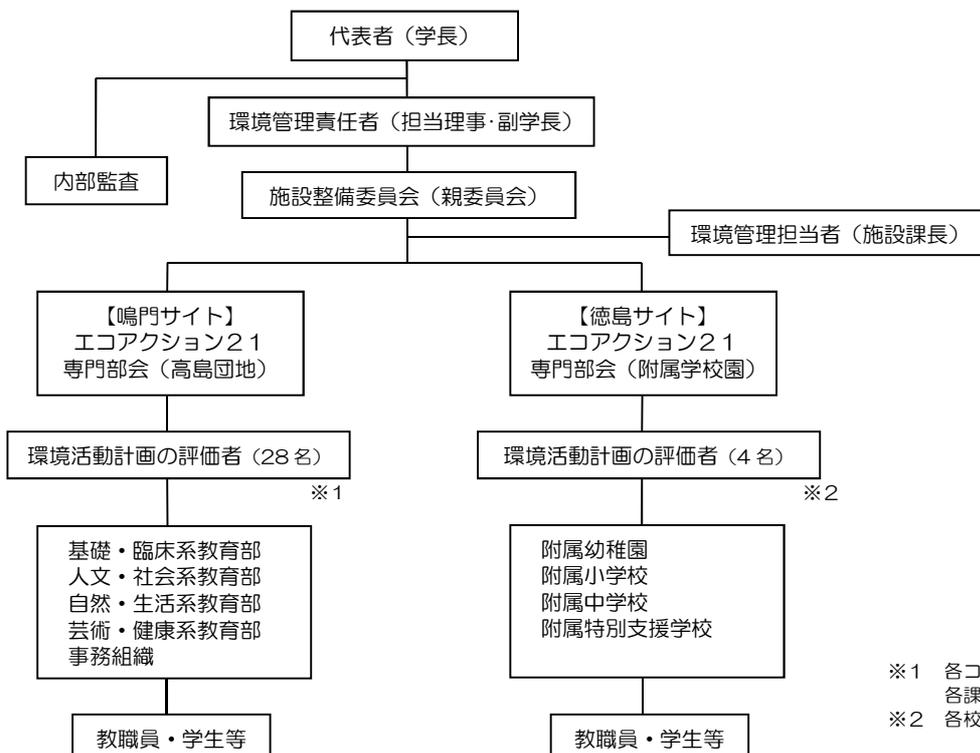
(6) 事業内容： 教員養成系大学

(7) 事業規模

区分	平成25年度	平成26年度
教員	151人	146人
附属学校教職員	98人	99人
事務職員・その他	95人	96人
学部生	455人	453人
大学院生	644人	644人
幼児・児童・生徒	1,333人	1,295人

区分	平成25年度	平成26年度	
敷地面積	鳴門サイト	238,207 m <sup>2</sup>	238,207 m <sup>2</sup>
	徳島サイト	49,339 m <sup>2</sup>	49,339 m <sup>2</sup>
建物延面積	鳴門サイト	43,301 m <sup>2</sup>	45,099 m <sup>2</sup>
	徳島サイト	18,106 m <sup>2</sup>	18,106 m <sup>2</sup>
主な負荷設備	排水施設	排水施設	
	電気設備	電気設備	

(8) エコアクション21 組織図



※1 各コース長及び特別支援教育専攻長、各課から推薦された者

※2 各校園長から推薦された者

## 環境目標，環境活動計画，平成26年度実績及び評価

### ◆環境目標・環境活動計画（H26・H27の2ヶ年）

目的	環境目標	環境活動計画
二酸化炭素の排出量の削減	電力使用量 平成22年度比 H26 4%の削減 H27 5%の削減	昼休み及び不要時は，業務上照明が必要な箇所等を除き，消灯する。 エレベーターの使用を控え，直近階へ階段を利用するよう努める。 冷暖房温度の適正管理（冷房 28 度以上，暖房 19 度以下）の徹底を図る。 冷房中は空調効果を上げるためにブラインド等をおろし，日射を遮る。
	燃料使用量 （ガソリン・灯油・LP ガス等） 平成22年度比 の使用抑制	公用車の運行は，急ブレーキ・急ハンドル等タイヤが摩耗しない運転を励行する。
水・紙の使用量の削減	水使用量 平成22～24年度 平均値の H26 1%の削減 H27 2%の削減	手洗い時等において，日常的に節水を励行する。
	紙購入量 平成22～24年度 平均値の H26 1%の削減 H27 2%の削減	コピー用紙の両面印刷，裏面の再利用の徹底を図る。 通知，連絡等については，電子メールの活用を図り，資料等は可能な限り電子媒体で保存する。
一般廃棄物の発生抑制	廃棄物量平成22年度 比の発生抑制	ゴミの分別回収を徹底する。 使い捨て製品の使用や購入の抑制をし，詰め替え可能な文具等を使用する。
化学物質の適正管理	化学物質の適正管理	化学物質の適正管理を徹底する。
グリーン購入の推進	グリーン購入の推進	グリーン購入の推進を徹底する。
環境に関する教育	環境マインドを持った人材育成	<大学> 環境保全に関する啓発を推進する。
		<幼稚園> 土・砂・泥・水，植物，動物などの「遊誘財」とふれあう中で環境マインドを育成する。 ① 自然の不思議ややさしさ，大きさなどに感動する心。 ② 「遊誘財」を生かして，生活の楽しさや便利さを感じる心。
		<小学校> 1年生からごみの分別や節水，節電など，日々の生活場面で可能な取り組みを習慣づけていき，総合的な学習の時間を中心に，環境問題や対策について調べたり考えたりして学習することにより，環境について広い視野で考えて行動できる子供を育成する。
		<中学校> 各教科等において，環境に関する単元（題材）の指導を充実させ，生徒の意識を高めるとともに，生活における実践的態度を育む。
		<特別支援学校> 日々の教育活動の中に，ゴミの分別回収，節電，節水等，環境教育に係る内容を積極的に取り入れ，児童生徒とともに取り組むこととおして環境教育を推進する意識の向上を図る。

※平成28年度目標については現在未設定のため掲載していません。

## ◆マテリアルバランス

マテリアルバランスとは、大学における事業活動において、投入された物質の量（インプット）と活動により排出された物質の量（アウトプット）の収支をあらわしたものです。本学では、教育・研究活動における環境負荷の把握を行い、これらの削減に取り組んでいます。

### INPUT

- 電力使用量  
3,675,313kwh
- 化石燃料使用量
  - 灯油 1,326 l
  - 軽油 2,232.3 l
  - ガソリン 2,678.5 l
  - LPガス 4,876.66kg
  - 都市ガス 56,179m<sup>3</sup>
- 水使用量  
52,668m<sup>3</sup>
- 紙購入量  
7,030,500 枚

大学運営  
(附属学校園運営)



### OUTPUT

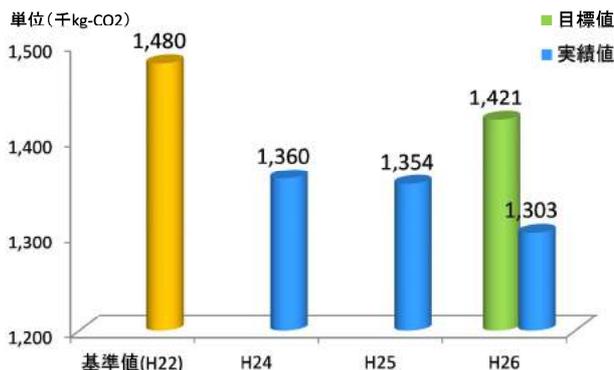
- 一般廃棄物  
349t
- 産業廃棄物  
28,363t
- 二酸化炭素排出量  
1,651,036.78kg-CO<sub>2</sub>
- 総排水量  
97,839m<sup>3</sup>  
※学生宿舎使用分(23,061m<sup>3</sup>),  
雨水侵入分を含む

## ◆環境負荷削減の取組

### ●二酸化炭素排出量の削減

…購入電力の排出係数は四国電力(株)のCO<sub>2</sub>排出係数(平成21年度実績)実排出係数0.000407t-CO<sub>2</sub>/kWhを採用

二酸化炭素排出量(鳴門サイト)



○鳴門サイト

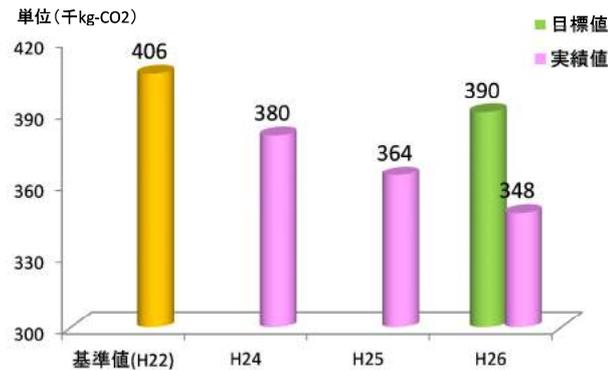
平成26年度の二酸化炭素排出量は、

1,303,067.26kg-CO<sub>2</sub>

前年度より、約4%減▼

目標値より、約8%減▼

二酸化炭素排出量(徳島サイト)



○徳島サイト

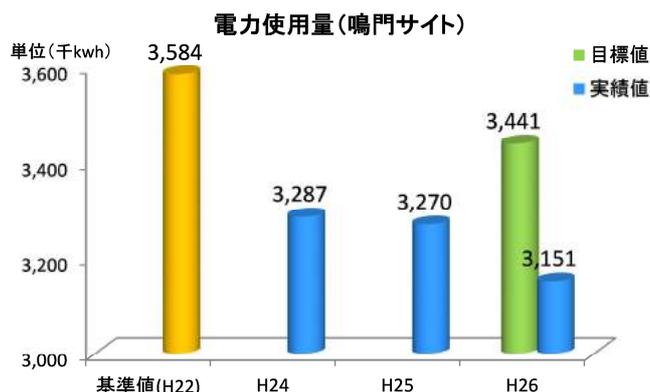
平成26年度の二酸化炭素排出量は

347,969.52kg-CO<sub>2</sub>

前年度より、約4%減▼

目標値より、約11%減▼

## 【●電力使用量の削減】



○鳴門サイト

平成 26 年度の電力使用量は、

**3,151,117 kwh**

前年度より、約 4%減▼

目標値より、約 8%減▼



○徳島サイト

平成 26 年度の電力使用量は、

**524,196kwh**

前年度より、約 2%減▼

目標値より、約 5%減▼

不要時間、不要場所での電気の消灯、階段利用の推進、空調等の温度の適正管理、パソコン等機器の電源 OFF 等の日々の取組に加えて、鳴門サイトでは、空調機の更新や照明の LED 化を行い、今年度も電力使用量を削減することができました。

## 【●化石燃料使用量の削減】

		灯油 (ℓ)	軽油 (ℓ)	ガソリン (ℓ)	LP ガス (kg)	都市ガス (m <sup>3</sup> )
鳴門サ イト	目標値	36	173	2,401	5,054	-
	26 (25)	142 (72)	114 (136)	2,278 (2,441)	4,877 (5,537)	-
	増▲減▼	約 294%増▲	約 34%減▼	約 5%減▼	約 4%減▼	-
徳島サ イト	目標値	1,187	1,821	280	-	70,954
	26 (25)	1,184 (1,364)	2,118 (1,906)	401 (440)	-	56,179 (61,550)
	増▲減▼	約 0.3%減▼	約 16%増▲	約 43%増▲	-	約 21%減▼

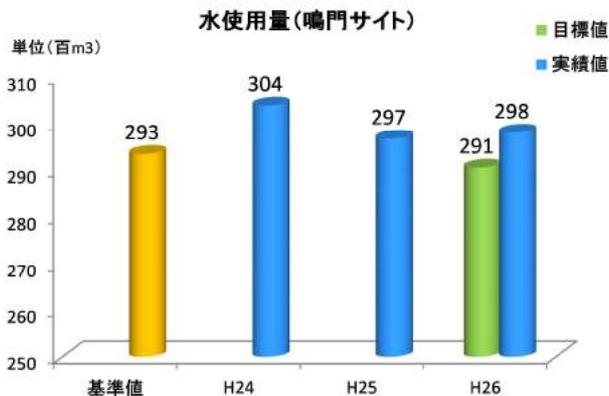
※小数点以下四捨五入

温度の適正管理や、公用車等のエコドライブの推進等により、燃料使用量の抑制に努めています。鳴門サイトでは、寒さや使用時間の増加のため灯油の使用量が増加しました。(灯油は入試の際の暖房機器に使用するため、試験時間等に伴い使用量が変化します。) 徳島サイトでは、業務の増加に伴い、バスや公用車の利用が増加したため、軽油やガソリンの使用量が増加しました。

## ●水使用量の削減

水資源は上水のみです。利用者数等により、年度毎においての変動があります。

※基準値＝22～24年度平均水使用量



○鳴門サイト

平成 26 年度の水使用量は、**29,804 m³**

目標値より、**約 2% 増 ▲**



○徳島サイト

平成 26 年度の水使用量は、**22,864 m³**

目標値より、**約 7% 減 ▼**

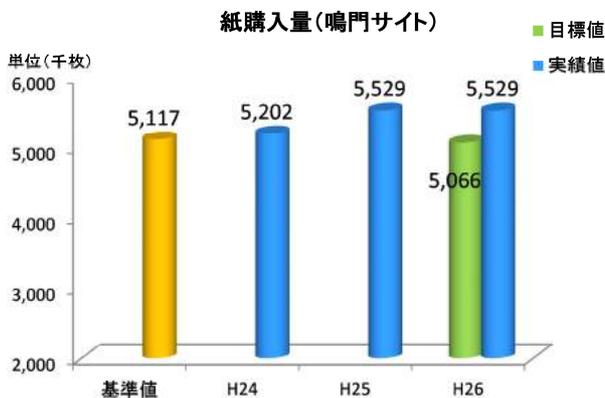
手洗い時等の日常的な節水を推進しています。鳴門サイトでは、トイレの改修により節水型機種が導入されました。

鳴門サイトでは、地盤沈下による配管からの漏水があり、目標を達成できませんでした。

徳島サイトでは目標を達成することができました。

## ●紙購入量の削減

※基準値＝22～24年度平均紙購入量

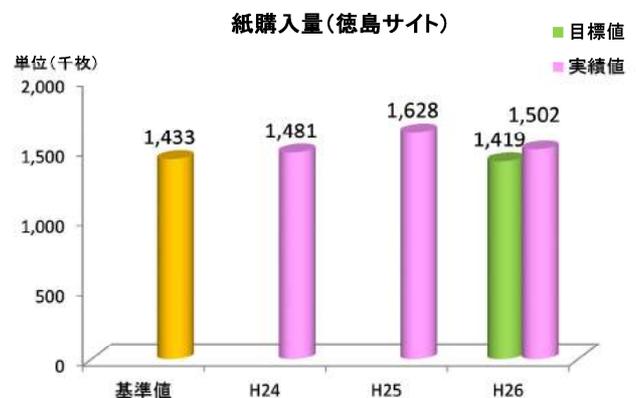


○鳴門サイト

平成 26 年度のコピー用紙購入量は、

**5,528,500 枚**

目標値より、**約 9% 増 ▲**



○徳島サイト

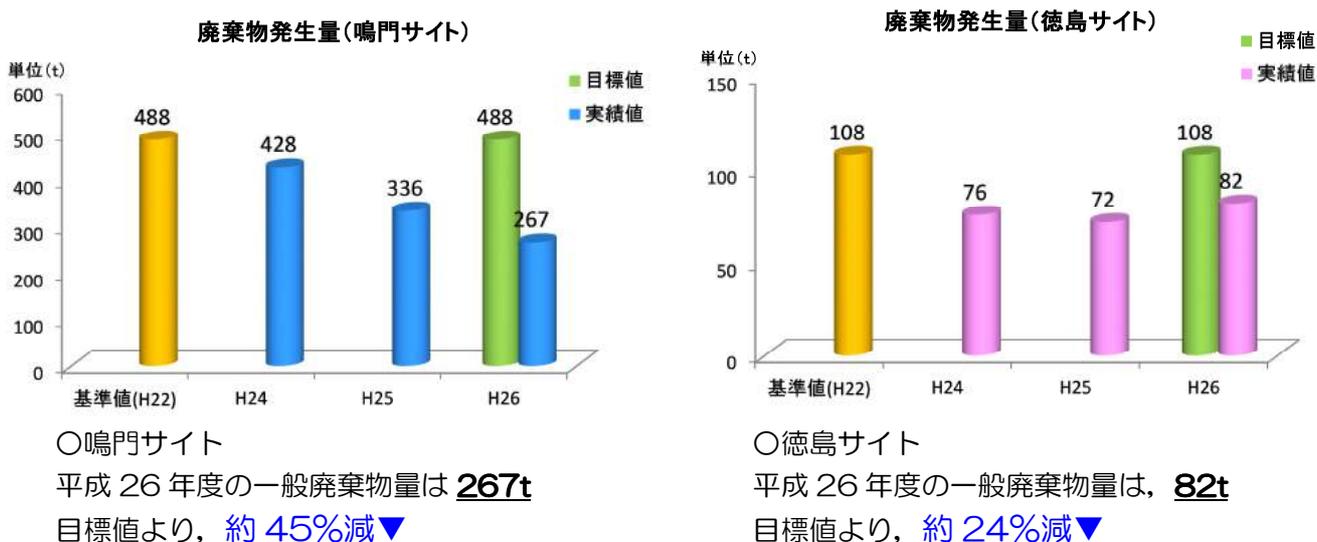
平成 26 年度のコピー用紙購入量は、

**1,502,000 枚**

目標値より、**約 6% 増 ▲**

印刷時における両面印刷の推進，裏面の再利用，電子メールの活用によるペーパーレス化等に取り組んでいます。鳴門サイトでは、平成 25 年度から学生負担だった紙の購入を大学負担に切り替えたことや、新たな事業等の実施に伴い、使用量が増加しました。また、徳島サイトでは、教材を学内印刷で作成していることや、研究に関する資料作成のため、使用量が増加しました。

## ●一般廃棄物量の削減



ごみの分別回収の徹底、古紙のリサイクルの推進等により、今年度も目標を達成することができました。

## ●化学物質の適正管理

本学では、「国立大学法人鳴門教育大学毒物及び劇物取扱要項」において毒物等を適正に管理するため、「毒物等管理担当者」及び「毒物等使用責任者」を配置しており、毒物等の使用状況を「毒物等使用簿」により把握・管理しています。

2年に一回毒物等保管庫鍵貸出簿への記録や毒物等の使用状況の把握など適正な管理が行われているかを確認するため、財務課職員による実地検査を行っています。

## ●グリーン購入・調達状況

毎年度、グリーン購入法の規定に基づき、「国立大学法人鳴門教育大学における環境物品等の調達の推進を図るための方針」を定め、これに基づいて環境物品等の調達を推進しています。

◇鳴門教育大学のグリーン購入の方針について

<http://www.naruto-u.ac.jp/information/08/O14001.html>

グリーン購入調達実績（平成 26 年度）

○鳴門サイト 全分野… **100%**

○徳島サイト 全分野… **100%**

# 環境保全活動

## (1) 省エネルギー対策等について

### 【エコアクション21啓発活動】

各棟掲示板及び各部屋に、「鳴門教育大学環境方針」,

「平成26年度の環境目標および環境活動計画」を掲示しました。電気と水使用量も毎月掲示しています。



シール de 温度



エコカード

その他,

(名刺サイズに折りたたみ、持ち歩く事ができ何時でも何処でも見ることが出来る)

- 1) 電源スイッチに節電シール,
- 2) 手洗い場に節水シール,
- 3) エレベーターインジケーター横に、階段利用促進シールの貼付をしています。
- 4) ゴミ箱には分別できるようシールを貼っています。



**【省エネルギー対策】**

地球温暖化防止及び省エネルギーに資するため、夏季の軽装の励行、冷房期間・温度及び暖房期間・温度について、全教職員に通知及び掲示を行っています。

1) 夏季の軽装（5月1日～10月31日）

公式行事への出席等やむを得ない場合を除き、原則として軽装（ノーネクタイ・ノー上着）で執務するようにしています。

2) 冷暖房期間・温度

冷房期間：6月20日～9月19日 冷房温度：28℃

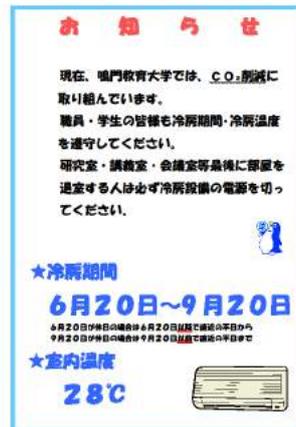
暖房期間：12月10日～3月20日 暖房温度：19℃

\* 講義室、会議室等に掲示しています。

3) 夏季一斉休業（8月13日，14日，15日）

また、本学に勤務する職員の心身の健康の維持・増進，家庭生活の充実を図り，地球温暖化防止及び省エネルギーに資することを目的として，夏季一斉休業を実施しています。

**節約電力量：**  
**鳴門サイト 11,570kwh**  
**徳島サイト 1,728kwh**



## 環境マインドを持った人材の育成

本学の環境方針の「環境マインドを持った人材」とは、エコアクション21の活動を通じ、構成員が自ら主体的に学び、行動する人材のことです。このような人材育成に向けて、本学では下記のような取組を教育科目や活動を通じて行っています。

### 【各種活動】

#### ● 平成26年度新任職員研修（平成26年4月2日）



本学の新任教職員45名に対し、平成23年4月から「エコアクション21」の取組を始め、昨年度は附属学校園の認証・登録を取得したことが紹介されました（範囲拡大）。また、「鳴門教育大学環境方針」、「平成26年度環境目標および環境活動計画」について説明を行い、本学の構成員の一員として、積極的な協力を呼びかけました。

#### ● 平成26年度入学式オリエンテーション（平成26年4月8日）

新入生373名に対し、省エネ、省資源、廃棄物削減等に全構成員が取り組む「環境マネジメントシステム」の一つとして、「エコアクション21」について概要説明を行いました。

また、鳴門教育大学の構成員の一員として、10項目の「環境活動計画」に積極的に取り組み、環境に関するボランティア活動への積極的な参加を呼びかけました。



● リユースデイとバザールの実施（平成26年7月10日・14日・15日）

## 『リユースデイ』の開催について



**収集日時：平成26年7月10日(木) 9:00～15:00**  
 ※午前中不在の場合は、午後再度伺います。  
 予備日：平成26年7月11日(金)

**取組**：各棟研究室等において、**使用しなくなった備品及び消耗品で再利用可能なもの**を財務課職員が収集に参ります。  
 当日ご不在の場合は、7月3日(木)までに財務企画係(内線 6053)へご相談ください。

**資産**：再利用可能な少額資産及び固定資産は、移管手続き等が必要となりますので、7月3日(木)までに施設課資産管理係(内線 6058)へご連絡ください。

※1 再利用できない物品は引取りできません。  
 ※2 平成25年1月実施のエコアクション21審査で、本活動が評価されました。  
 ※3 本取組は、教育・研究の要する充実を目的としています。

## 『リユースバザール』の開催について

リユースデイで収集した備品及び消耗品を下記のとおり分配いたしますので、興味のある方は、ぜひお立ち寄りください。多数の方の参加をお待ちしております。なお、**分配は先着順**となります。ご理解のほどよろしくお願い致します。

**日時**：平成26年7月14日(月) 10:00～15:00  
 15日(火) 10:00～15:00

**場所**：旗本水7イエ



経営企画本部 財務課財務企画係 (内)6053  
 施設課資産管理係 (内)6058



「リユースデイ」を実施して学内で使用されなくなった備品類を集めました。その後「リユースバザール」を開催し、それら備品類を再分配しました。

● 平成26年度エコアクション21内部監査実施（平成26年9月1日～9月26日）



本学の環境経営システムが、ガイドラインで規定する要求事項に適合しているか、また組織が定められたルールに適合しているか、環境目標が達成されているか、環境活動計画が適切に実施され環境への取組及びシステムが継続的に改善されているか等を評価することを目的として、内部監査を実施しました。

なお、今年度においても、昨年度養成した人材の中から環境管理責任者が監査員を推薦し、監査を実施しました。



● 構内一斉清掃の実施（平成26年8月20日，11月5日）

本年度は台風通過後と大学祭前に一斉清掃を呼びかけ、100～150名の教職員および学生が参加しました。



## ● 平成 26 年度エコアクション 21 講演会開催（平成 26 年 10 月 29 日）

教職員及び学生を対象に、平成 26 年度エコアクション 21 講演会を開催しました。本学の近森憲助教授より「持続可能な社会づくりと持続可能な開発のための教育（ESD）」と題してご講演いただき、参加者 76 名は熱心に耳を傾けていました。



### ～講演後アンケートより～

- ・ 未来に負の遺産を残さないことが現代に生きる我々の使命である。
  - ・ 今が良ければそれで良いということではなく、将来世代の子どもに負の遺産を残さないことを考えなければならない。
  - ・ 環境について学ぶ機会が少ないのは将来の子どもたちのためを思うと深刻になってくる問題だと思った。意識して環境について考えていこうと思います。
- …など多数ご意見・ご感想をいただきました。

## ● 平成 26 年度エコアクション 21 内部監査員養成研修実施（平成 26 年 12 月 18 日～12 月 19 日）



昨年度に引き続き、本学の職員を対象として平成 26 年度エコアクション 21 内部監査員養成研修を実施しました。講師にエコアクション 21 審査人も務めておられる阿部敏男氏を招き、1 日目は地球環境のおさらい、本学の環境マネジメントマニュアルの解釈及び監査のポイントについて講義していただきました。2 日目は前日の講義を踏まえて、講師の助言・解説を受けながら、グループ演習及び監査側・被監査側にわかれての模擬監査を実施しました。

講師からは、

「やる気のある良い演習風景を見せていただいた。」との講評をいただきました。



【環境教育・研究】

● 大学における環境関連科目

区分	科目	担当教員	内容	
自然環境に関わる科目	開発と環境	青葉暢子, 近森憲助, 田村和之	自然環境や資源を保持しながら経済成長を実現する(持続可能な開発)ためには, 各国政府のみならず各個人が何をしなければいけないのかを考える。	学部
	人口と食糧問題	松永哲郎, 西川和孝, 宮口智成	国内外の人口問題・食料問題について, 食料生産と環境破壊との関係性など, 多面的・多角的な視点から考察する。	学部
	科学技術と社会	伊藤陽介, 宮下晃一, 粟田高明, 村田守, 工藤慎一, 胸組 虎胤	科学技術の変化が社会事象に結びついてきた歴史的経緯を学ぶとともに, 私たち自身の身近な技術と生活の状況を分析することを通して人間および社会が主導の科学技術を構築し未来の豊かな生活環境を創造するための議論を行う。	学部
	生活 A	檜幸正(嘱託講師)	あさがおを種から大切に育て毎日世話をして種をとることで, 命の尊さや継続性に気付く実践について学ぶ。	学部
	生活 B	檜幸正(嘱託講師)	あさがおを種から大切に育て毎日世話をして種をとることで, 命の尊さや継続性に気付く実践について学ぶ。	学部
	衣生活学	福井典代	衣生活と環境問題として, 衣服の廃棄と洗濯による生活排水の汚れの程度について学習する。	学部
	運動方法 VI	南隆尚, 松井敦典	野外活動・アウトドアスポーツ・キャンプなどを行う授業である。自然体験活動を通じて環境や自然の重要性を体感することを目的とする。	学部
	栽培(実習を含む。)	川口公男(嘱託講師)	作物栽培を通じて, 農林業のもつ多面的機能とともに, 生産環境の保全に肥料や農薬の適正使用も重要であることを認識する。	学部
	衣生活学研究	福井典代	家庭から排出される生活排水の汚れの程度について, COD パッケージによる実験を行うことにより理解を深める。	大学院
社会環境に関わる科目	衛生学・公衆衛生学 I	廣瀬政雄	人の健康に影響する生物学的, 化学的および物理学的環境要因について公衆衛生の観点から講義している。	学部
	衛生学・公衆衛生学 II	廣瀬政雄	生物学的, 化学的および物理学的環境要因が人の健康に及ぼす仕組みを疾病予防の観点から講義している。	学部
	住生活学	金貞均	環境共生住宅のあり方と環境配慮型住生活について取り上げている。風・太陽・雨など, 自然の力を上手く利用した住宅の事例から学び, 省エネを実践する住まい方について考える。	学部
	地誌学概論	立岡裕士	環境概念を正しく理解させるために, 環境を時間的・社会的に固定的なものと考えてはならないことなどを説明している。	学部
	国際理解教育演習	近森憲助, 小澤大成	持続可能な開発のための教育(ESD)の枠組みの中で環境も含めて国際理解教育について授業を実施している。	大学院

区分	科目	担当教員	内容	
環境マネジメントに関わる科目	環境と文化	田村和之	環境教育の基礎となる環境論や人間活動による環境への影響について講義している。	大学院
	人間と環境Ⅰ	田村和之	身近な地域や様々な道具・食品などを環境教育でどのように教材として使うかを調査し、実際に授業で各自が紹介・討論を行う。	大学院
	人間と環境Ⅱ (実践研究A)	田村和之, 近森憲助	様々なテーマの環境教育の授業について分析を行い、実査に授業を作成・実演し、改善する。	大学院
	人間と環境Ⅲ (実践研究B)	田村和之, 近森憲助	受講生が与えられたテーマで環境教育の授業を作成し、授業改善を加えながら繰り返し模擬授業を行う。	大学院
	教職基礎力開発 演習	葛上秀文, 木下光二, 藤原伸彦, 佐古 秀一, 阿形恒秀, 川上綾子, 前田洋一, 江川克弘, 坂田進, 野村篤	学習指導要領, 教育関係法規などの講読を通し, 学校での環境教育の在り方について, また, そこでの教員の役割について, 議論を行った。	大学院
複数に関わる科目	コミュニケーションと環境	金野誠志, 谷村千絵, 小西正雄	自然環境や社会環境の変化により起こっている問題(持続可能な開発, 閉塞化するコミュニケーション等)を取り上げた事例や教材を分析・考察する。	大学院
	総合学習論	村川雅弘	我が国の学校教育においては, 国や地域の課題などを取り上げ探究的に取り組む学習活動は総合的な学習の時間で実施される。本授業では, 小中高の環境教育に関する実践事例をも積極的に取り上げ紹介している。	学部
	総合学習カリキュラム開発特論	村川雅弘	我が国の学校教育においては, 国や地域の課題などを取り上げ探究的に取り組む学習活動は総合的な学習の時間で実施される。本授業では, 小中高の環境教育に関する実践事例をも積極的に取り上げ紹介している。	大学院
	カリキュラムマネジメントの理論と実践	村川雅弘	環境教育を含む現代的な諸課題に対応した教育活動を各学校において計画・実施する上で必要となるカリキュラムマネジメントの理論について具体的な事例を挙げて論じている。	大学院

## ● 大学における環境関連研究・取組の紹介

### 電動船外機船の開発と性能評価

生活・健康系コース（技術・工業・情報） 宮下 晃一 教授

小型漁船の推進力として広く使われている船外機は、主にガソリンエンジンで駆動されているために、化石燃料に依存し、CO<sub>2</sub>の排出を伴います。そこで本研究では、エネルギー資源の有効活用やCO<sub>2</sub>排出削減を目的として、ガソリンエンジンを電気モータに置き換えた電動船外機を開発し、その電動船外機を小型漁船に取り付けて航行に関わる性能評価を行っています。その結果、電動船外機船はエンジン船外機船の概ね 43%の消費エネルギーで同じ速力を発生させる性能を有することが明らかになりました。一方で電動船外機船は、高価なリチウムイオン電池を必要とすること、充電に時間がかかること、航続距離を伸ばしたり航行速度を上げるとエンジン船外機船に対する優位性が次第に小さくなることが分かりました。



船外機の推力測定

### 自然材料を芸術作品に

芸術系コース（美術） 野崎 窮 教授

芸術系コース（美術）の彫刻分野では、地元材木店や採石場から提供していただいた木や石のかけら、拾ってきた流木などの自然材料を活用した作品制作を行っています。



● 附属幼稚園における環境教育取組状況

テーマ	年齢	活動
○動植物とのかかわりを通して、その生命の不思議さや美しさややさしさを感じる。	3歳児・4歳児・5歳児	草花を使つての遊び・園外保育・飼育栽培活動など
○自然の中で存分に遊ぶ楽しさを味わい、自然の大切さを感じる。	3歳児・4歳児・5歳児	鳴門教育大学多目的広場での自然体験プロジェクト
○郷土徳島の自然の大きさと優しさを体感する。	3歳児・4歳児・5歳児	眉山登山・親子で城山探検
○エコな牛乳パックハウス	5歳児	冬期にビニールを貼った牛乳パックハウスを製作し、その中での暮らしを楽しむ。

幼児に自然に慣れ親しんでもらい、環境について遊びの中から学んでもらいます。



※「遊誘財」とは？

(鳴門教育大学附属幼稚園が作成した上記資料より抜粋)

子どもたちが興味関心をもって惹き付けられ、様々に感じ、気付き、夢中になって遊び込み、そのものの本質やおもしろさに迫り、その中から豊かな感情や多様な学びが得られる、そのような、子どもたちを遊びに誘う「環境」を、私どもは「遊誘財」と命名した。単なる素材や教材の「材」ではなく、宝としての「財」である。



● 附属小学校における環境教育取組状況

テーマ	学年	教科	時間
○そだてようあさがお！ 種からあさがおを育て大切に世話をする中で命の大切さたくましさについて気づかせた。	1	生活科学 学級活動	10/102
○もりもり食べよう。 栄養教諭の先生のお話と一緒に給食を食べたりすることにより、食の大切さを考え、残食を減らす取り組みを行った。	1	生活科学 学級活動	1/102
○たんぼぼはかせになろう たんぼぼの仕組みに関する説明文を読む活動を通して、命の大切さやたくましさについて気づく。	2	国語科	12/315
○徳島市たんけん隊 ～ひょうたん島クルーズ～ 学校前の寂聴棧橋から船に乗り、徳島市の町や新町川の様子を観察し自分たちの住む町の環境を考える。	3	生活科 総合	3/35
○われらごみ探偵隊 ふだん何気なく捨てているごみの分別や収集について学ぶことで地域の人々や地方公共団体の環境を守る努力について考えを深める。	4	社会科	12/105
○水はどこから どこへ 水道栓をひねると出てくる水はどこからどのように流れてきているのか学ぶなかで美しい水を守る努力について考える。また、工場や家庭などから出る排水が環境に与える影響について学ぶ。	4	社会科	12/105
○大切な水 淀川水系の環境やラムサール条約について学ぶ中で地元徳島の吉野川や都市の中心を流れる新町川の環境について考える。	5	社会科	5/105
○環境問題について考えよう 日本の自然や地球規模の環境問題について学び地球をどのように守っていくか考える。	5	社会科	3/105
○世界がかかえる様々な問題世界が、環境や平和についてどんな問題をかかえているのか調べる。	6	社会科	2/105
○わたしと環境問題 —附小エコフォーラム— 環境問題について個々の課題意識をもとに調べ活動を展開を通して環境保全に向けて自分たちができることを考える。	6	総合	20/70



- 総合的な学習の時間を中心に、環境に関する学習をしています。
- 保護者による制服・体操服のリサイクル活動を行っています。



● 特別支援学校における環境教育取組状況

学部・学年	教科等	指導内容
小学部(全)	日常生活の指導	・燃えるゴミ, 燃えないゴミを意識して, ゴミ箱に分けて入れる習慣を身につける。 ・手洗い, 歯磨きの仕方を身につけるとともに, 水, 電気のむだづかいをしない習慣を身につける。
	生活単元学習	○野菜の栽培をとおして 植物の生長における水の大切さを知るとともに, 野菜が食生活に欠かせない物であることを知る。
中学部(全)	日常生活の指導	・紙, プラスチック, 発泡スチロール, ビニール, 木材等の名称を知るとともに, 燃えるゴミ, 燃えないゴミに分別してゴミ捨てをする習慣を身につける。 ・水道水, 電灯, エアコン等の資源の大切さを知り, 人のいないときは消灯, 省エネを心がける。
	生活単元学習	○地域の環境の美化に貢献しよう ポイ捨て等が環境に与える学習をするとともに, 吉野川河川敷の清掃活動をする。 ○野菜を栽培しよう 野菜の生長の学習をするとともに, つる性植物(きゅうり)や木立性植物(トマト)による遮光効果の学習をする。
	職業・家庭科	○快適な住まい 部屋の換気, 採光, 照明, 冷暖房機等の必要性について考える。
高等部(全)	日常生活の指導	・燃えるゴミ, 燃えないゴミ, ダンボール, 資源ゴミを分別し, 正しい処理の仕方を身につける。
	生活単元学習	○リサイクルセンターの見学 ○腐葉土づくり 校内清掃活動で生じた草や落ち葉を利用して腐葉土をつくり, 野菜を栽培する畑の肥やしとする。
	家庭科	○快適な住まい 部屋の換気, 採光, 照明, 冷暖房機等の仕方を知り, エコを意識した健康な住まい方を工夫する。
	作業学習	○紙工班(牛乳パックの再利用による紙漉作品の制作) ○木工班(木工会社の端材を利用した木工作品の制作)
	就業体験	○空き缶やペットボトルの分別に関する実習

- ・牛乳パックを再利用し, しおりやはがきを作っています。
- ・県内の木工業者から, 余った木材を提供いただき, 木工作品制作を行っています。



● 附属中学校における環境教育取組状況

テーマ	学年	教科	時間
○流水と私たちの暮らし 地球温暖化と極地の氷が減少していることとの関係やシロクマなどの野生生物への影響について学習する。 分解性プラスチックの性質と微生物の働きが環境破壊を防ぐことを学習する。	1	国語科	3/140
○江戸からのメッセージ 江戸時代の生活は3Rに基づいており、ゴミゼロの時代であったことから、現代の私たちの暮らしぶりを振り返る。	1	国語科	2/140
○モアイは語る—地球の未来 モアイを建造していた文明が減んだのは、薪や耕作地にするために森林を伐採した結果であることを知り、現在の文明がイースター島と同じ危機的状況であることを知る。	2	国語科	8/140
○人は月に住むことができるのだろうか 「月の起源を探る」を読んで、地球から一番近い天体である月に人は住むことが「できる—できない」、「必要がある—必要がない」の視点で、地球の環境について考える。	3	国語科	8/140
○アマゾンの熱帯雨林 森林伐採等による地球温暖化やアマゾンの砂漠化について学習する。	1	社会科	3/105
○ラムサール条約 琵琶湖の環境やラムサール条約について学ぶ。	2	社会科	2/105
○近畿地方 環境保全の視点を中心に、自然・産業・人々の暮らしを考察する。	2	社会科	5/105
○環境問題への取組 環境を守るためにはどのような経済活動が必要なのかについて、多面的・多角的に考察する。	3	社会科	1/140
○地球の環境 地球の環境をグローバルな視点から考え、話し合う。	3	社会科	4/140
○プラスチックの性質 物質を分類する中でプラスチックの性質に触れ、自然界では分解しない物質であることを学習する。	1	理科	4/105
○自然と人間 マツの気孔の観察を通して、空気中の汚れや排ガス問題について学習する。	3	理科	4/140
○酸・アルカリと中和 酸やアルカリの水溶液を安全に廃棄するには、どのようにすればよいのか、また、なぜそれが必要なのかについて学ぶ。	3	理科	1/140
○エネルギー資源とその利用 生活を支えるエネルギーの種類とその特徴について学び、新しい発電方法等についても学習する。	3	理科	2/140
○健康と環境 排水や空気、ゴミなどの環境問題が自分の健康とどのように関わっているのかについて学習する。	2	保健体育	5/105

テーマ	学年	教科	時間
○エネルギー変換に関する技術の評価・活用 水力発電, 火力発電, 原子力発電などの長所・短所について学習し, 今後どの発電方法にしていけばよいかを話し合う。	2	技術分野	3/35
○エネルギー変換に関する技術を学ぼう 技術・家庭科(技術分野)の発展学習として, 「総合的な学習の時間」において, エネルギー変換に関する課題を探究する。	2	総合	8/70
○目指そう! エコライフの達人 持続可能な社会の構築のために, 環境に配慮した消費生活について工夫し, 実践できるようにする。	1	家庭分野	2/35
○食生活と自立 調理実習を通して, 残飯や排水の処理の仕方について学ぶ。	2	家庭分野	3/35
○If You Wish to See Change 12歳のセバン・スズキさんの地球環境サミットでのスピーチをもとに, 環境問題について考える。	2	英語	4/140
○The 5Rs to Save the Earth 地球温暖化やゴミ問題など, 私たちが直面している課題を解決するための方法として, 5Rが大切であることを題材を通して学習する。	3	英語	4/140
○今, 私たちにできること さまざまな環境問題を身近な問題としてとらえ, 学習した知識を生かして自分にできることを考える。	1	総合	10/50
○水環境について考える パックテストを用いて川のいろいろな場所の水質を調べ, 人間の生活が川の水質環境にどのような影響を与えているかについて学習する。	1	総合	2/50
○修学旅行 in TOKYO 班別自主研修で国土交通省, 消防庁などを訪れ, 台風の影響で甚大な被害を受けた伊豆大島の状況と, 救助・復旧にあたる様子をまとめ発表する。	2	総合・特活	8/70
○徳島未来構想 徳島の現状を調べ, そこから25年後の徳島の環境に関する問題についての提言を行う。	3	総合	15/70
○暮らしの緑化推進絵画コンクール 緑を大切にしたい暮らしの大切さを理解する絵画コンクールに参加する。(平成26年度は県入選2名が選ばれた。)	1~3	美術	夏休みの課題制作

- ・生徒会活動として, ペットボトルキャップやリングプルの回収をしています。
- ・特殊な装置を使ってプールの底を掃除し, プールに入れる水量を少なくしています。
- ・図書室に環境に関する図書を集めたコーナーを作ったり, 節電や節水を呼びかける掲示をしたりして, 啓発に努めています。
- ・教科や総合的な学習の時間の学びと環境教育を関連させ, 学校の教育活動全体を通じた取組を進めています。



## 【環境関連の地域・社会貢献の取組状況】

### ● 環境関連公開講座の紹介

自然、環境などに親んでもらいながら、大学の研究成果を地域の人たちにも知ってもらえる公開講座も開催しています。



#### なるっ子わくわく教室「吉野川の石ころ観察教室」

##### 【目的及び実施内容】

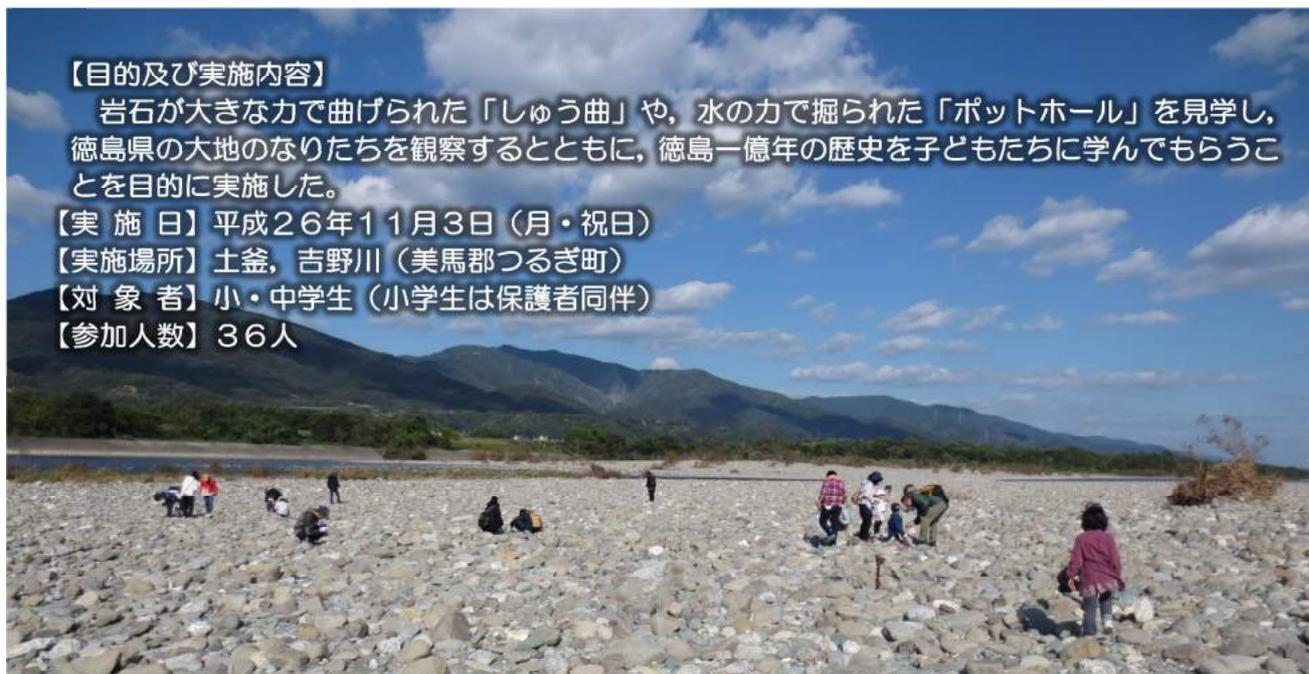
岩石が大きな力で曲げられた「しゅう曲」や、水の力で掘られた「ポットホール」を見学し、徳島県の大地のなりたちを観察するとともに、徳島一億年の歴史を子どもたちに学んでもらうことを目的に実施した。

【実施日】平成26年11月3日（月・祝日）

【実施場所】土釜，吉野川（美馬郡つるぎ町）

【対象者】小・中学生（小学生は保護者同伴）

【参加人数】36人



## 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

### (1) 法遵守で安心・安全なキャンパス

本学は、環境管理責任者が中心となり、平成 26年度の遵守評価を行い、問題ないことを確認することができました。法遵守の実態からキャンパスでの安心・安全な環境下で教育活動が持続できています。また、過去5年間、利害関係者からの苦情、訴訟は1件もありませんでした。

### (2) 適用する環境関連法規の遵守状況

活動に関係して適用する環境関連法規の遵守評価を以下に示します。最終、環境管理担当者が遵守の評価を行います。

環境管理担当者：平成 27年 3月 31日

環境関連法規類		遵守評価 平成 27年 3月		評価	
		監視及び測定	担当		
1	毒物及び劇物取締法	特定薬品関係管理状態	財務課	○	
2	労働安全衛生法	産業医・安全・衛生管理者等	総務課	○	
3	消防法	危険物管理 消防用設備	財務課 施設課	○	
4	廃棄物処理法	一般廃棄物分別及び特別管理廃棄物の処理状態など 増改築工事時の産業廃棄物処理	財務課 施設課	○	
5	資源有効利用促進法	パソコン・二次電池等	財務課	○	
6	家電リサイクル法	廃棄時確実な引渡し・不法投棄	財務課	○	
7	自動車リサイクル法	廃棄時確実な引渡し・不法投棄	財務課	○	
8	建設リサイクル法	新築・増築・解体工事発生時 元請け業者との契約事項	施設課	○	
9	PCB処理特措法	自治体届出・年1回6月確認 微量PCB使用中・管理状態	施設課	○	
10	フロン回収破壊法	フロン回収手続の処理	施設課	○	
11	水質汚濁防止法	瀬戸内海法 月1回 窒素・リン・BOD記録	施設課	○	
12	浄化槽法	定期的な保守点検・清掃、法定点検	施設課	○	
13	水道法	年1回清掃・点検	施設課	○	
14	グリーン購入促進法	報告書 毎年4, 5月頃確認	財務課	○	
15	環境配慮契約法	毎年5月頃確認	財務課	○	
16	環境保全活動・環境教育推進法	持続可能な社会・意欲の増進	施設課	○	
17	食品衛生法	営業許可証の確認	学生課	○	
18	省エネ法	エネルギー合理化・自主的	エコアクション21：環境目標・環境活動計画進捗	施設課	○
		トップランナー方式	23機器の内、買替時購入	財務課 施設課	○
19	環境基本法、循環型社会形成推進基本法 温対法、文部科学省からの通達など	国の施策に協力、温室効果ガスの排出抑制枠組など	施設課	○	
20	小型家電リサイクル法	使用済小型電子機器等の排出状況を確認	財務課 施設課	○	

# 代表者による全体の評価と見直しの結果

日 時 平成27年6月26日(金) 10:00~11:00 場所 学長室			
出席者 代表者(学長), 環境管理責任者(担当理事・副学長), エコアクション21事務局			
環境管理責任者 (担当理事・副学長)	代表者(学長)		環境管理責任者 (担当理事・副学長)
成果・実績のインプット情報	評価・判断	アウトプット情報・改善の指示 変更の必要性	具体的指示の対策及び周知
平成27年6月26日	平成27年6月26日	平成27年6月26日	平成27年6月26日
①環境方針の達成状況 平成25年度同様、全構成員に対して積極的に周知を図り、平成26年度においても達成している。引き続き、取組を推進するため、環境方針を全構成員に周知徹底を図る。	『妥当性』  本学が、運用する環境マネジメントシステムは妥当であると判断できる。	■環境方針 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無  『鳴門教育大学環境方針』(平成27年11月24日)を平成27年度においても継続する。	■対策・決裁・周知  引き続き、環境活動レポート及びエコアクション21リーフレットをホームページで公表し、全構成員の環境への意識を高める。
②環境目標・環境活動計画の進捗度と結果 平成26年度において、化石燃料使用量、水使用量及び紙購入量の削減について、一部未達成であったが、電気使用量の削減については平成25年度と同様に達成しており、二酸化炭素排出量の削減についての目的は達成している。また、環境マインドを持った人材育成について、平成26年度に行った活動は評価できる。今後も取り組みを継続していく。	『適切性』  本学は、法で定められている特定事業所ではないが、自主的・積極的に環境マネジメントに取り組むことができるエコアクション21の運用は適切であると判断できる。	■環境目標・環境活動計画 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無  平成26年度において、一部未達成が報告されている化石燃料使用量、水使用量及び紙購入量の削減については、可能な限り原因の究明に努める。	■対策・決裁・周知  エコアクション21専門部会において、再度達成手段等を検討する。平成26年度未達成の化石燃料使用量削減については、電気使用量削減と相対する部分があるので、平成27年度は進捗管理による原因把握を徹底する。平成26年度未達成の水使用量削減については、原因の分析はできず、対処済であるが、今後予防措置に努める必要がある。また、ルーチン業務における紙購入量削減として、引き続き、諸会議のペーパーレス化を推進する。ルーチン業務以外の特別な業務がある場合(本学主催の全国会議等)については、紙の使用量を把握し、例年との比較ができるようにする。
③法遵守の定期的評価結果 適用する環境関連法規類は、担当部署に確認し適切にまとめている。本学の構成員においては、法遵守の重要性を十分認識している。引き続き、安心・安全な環境下で教育研究活動が持続できるよう、内部監査の重点監査項目として監査を行う。	『有効性』  環境活動計画では、電力・水使用量等の進捗状況が年度月別毎にグラフ化され、成果が把握しやすい。進捗状況を、4ヶ月毎に環境管理責任者が監視・測定・評価し、実態を把握する仕組みは良いと思われる。電力使用量については、前年度に引き続き、環境目標を大幅に達成しており、震災後の節電の意識が定着していると思われる。	環境マインドを持った人材の育成については、定めた環境活動計画に基づき活動を推進する。	講演会・オリエンテーション・構内一斉清掃などの活動に学生が積極的に参加できよう創意工夫し実施する。
④経営システムの実施状況・PDCAサイクルの機能性 中期2カ年計画の1年目にあたり、新たに設定した目標に向けて取組を実施し、二酸化炭素排出量は十分達成することができた。環境マネジメントシステムに係る事項は、複数年にわたって実施するものも多いため、現時点では、サイクルの有効性は判断できないが、中期2カ年計画が終了する平成27年度の活動実施後に、再度点検・見直しを行いたい。また、今後もエコアクション21の理解度をさらに高めていく必要がある。		■経営システム <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無  インプット情報の報告にもあるとおり、環境マネジメントシステムの理解度を深めることが必要である。	■対策・決裁・周知  全構成員がエコアクション21の理解を深めるため、環境活動計画等を見直して実行していく。  また、環境活動レポートは、平成26年度版を周知し、引き続き読者を意識した誌面づくりを心がける。
⑤問題点の是正処置・予防処置 是正処置についてはなかった。 平成26年度においても、環境経営システム全体の状況について、平成25年度に実施した内部監査員養成研修の受講者の中から監査員を推薦し、内部監査を実施した。平成27年度においても、平成24~26年度に実施した内部監査員養成研修の受講者の中から監査員を推薦し、内部監査を実施する。	気付いた点  環境に対する意識が、講演会や構内一斉清掃などの環境保全活動をとおして広がっていることは評価できる。今後も、これらの活動を継続し、学生の積極的な参加を図っていくことが必要である。	■学長特命事項 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無  ●エコアクション21の内部監査を実施する必要がある。	■対策・決裁・周知  ●平成27年度においても、平成24~26年度に養成した監査員による内部監査を実施する。
⑥利害関係者の見解及び要望事項 平成26年度においては、要請事項等はなかった。引き続き、事象発生時は是正処置・予防処置に注意が必要である。			
⑦教育訓練状況と結果 エコアクション21講演会や構内一斉清掃を実施し、教職員だけでなく学生に対しても環境に対する意識付けを行った。徳島サイトでは環境関連の授業等を通して教育活動を行い、大学全体としての理解が深まっている。			
⑧緊急事態準備対応・手順書テスト結果 平成26年度においても11月に防災訓練を実施しており、防災予防は問題ない。			
⑨前回レビューのフォローアップ事項 リーフレット・エコカードを作成し、構成員に配布を行い環境意識を高めた。また、講演会や清掃作業については、学生・教職員の参加しやすい日程調整を行い実施した。内部監査については、内部監査員養成研修の受講者の中から監査員を推薦し、実施した。			



平成27年7月 作成

国立大学法人鳴門教育大学施設整備委員会  
エコアクション21専門部会

〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島 748 番地

URL <http://www.naruto-u.ac.jp/>

代表者 学長 田中 雄三

環境管理責任者 担当理事・副学長 黒川 丈朗

問合せ先：

経営企画本部施設課 TEL 088-687-6082

メール：sikikaku@naruto-u.ac.jp



表紙の花…アメリカティゴ

落葉広葉樹。6～9月に真っ赤な花を咲かせます。  
本学正面玄関前にあります。